

— 広 告 —

KIT
キャンパス
レポート
文：出島二郎
マーケティングプランナー



片山 祐樹 (かたやま ゆき)
金沢工業大学大学院工学研究科
高信頼ものづくり専攻
博士前期課程一年
愛知県立名古屋南高等学校出身

思い通りにならないとき その原因を考える時間が好き。

大学進学では両親や高校・塾の先生に相談することが多い。片山さんは、高校の先生からは入学後のことを考えなさいと。塾のチューターさんからは、航空機をつくりたいなら機械工学へと。機械の原理的なことを全体的に勉強できるし、電気やICT分野でも応用が利くからとアドバイスされた。

「金沢工大は就職率が高く、特

別奨学生制度のスカラシップフェローで入学すれば国立大学と同じ学費で済むから。親は県外なら社会勉強と自分で稼ぐ苦労を知るためにアルバイトをしろと。院進学は技術開発や設計の仕事をするには重要なステップだと思ひ、学部三年のとき親を説得しました。」
片山さんの研究テーマは「CFRP積層板のモードIII層間破壊メ

カニズムの解明」である。モードIとIIはすでに規格化されているが、モードIIIはまだ研究成果が出ていない分野だ。指導する齊藤博嗣准教授の専門は複合材料工学・材料力学・計算力学である。

「先生は、臭い物には蓋をせず、そこに興味を持つんですよ。いい意味でマイペース。テストで答えが間違っても過程がうまく解けていればいいし、わからないところはみんなが躓くからと細かく説明してくれる。この先生についていこうと思ひましたね。複合材料に興味があつたし。実験では必ず結果が出ますが、いろんな評価方法での解析をつなぎ合わせて一本の筋道ができる瞬間が心地いい。」

片山さんは昨年の新材料工学研究会で奨励賞を受賞。また先端材料技術協会主催の学生プリッジコンテストに研究室の同期四人と出場し優勝。しかし耐荷重が規定まで達せず、アメリカの世界大会は

逃した。解析を鵜呑みにしてはいけなさと分析する。こうした片山さんの自己批評する能力は、高校から大学まで続けてきた弓道によって培われてきたものだろう。

「弓道は、身体の仕組みと働きを考えないと再現性の高い射ができない。どれだけ当てたかより、どれだけ外したかの世界で、自分の思い通りにならないことの理由を考える時間が好きです。学部二年のインカレの近似的での個人四位より、翌年秋の北信越大会の団体準優勝の方が嬉しかったですね。」
三月に大阪で日本複合材料会議、九月にスロベニアの国際学会と札幌のシンポジウムで発表する予定だ。重工業系企業への就活も始まる。弓道の再開はその後になるが、これら一つ一つの目標をしっかりと射止めていくにちがいない。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七丁目
電話番号(076)2481100